

## 生産性運動の精神

## ——ローマ会議報告・JPC創立5周年

■「明日は今日に優る」という確信

「生産性とは何より

も精神の態度であり、

現存するものの進歩、

あるいは不断の改善を

目指す精神状態であ

る。それは、今日は昨

日よりもより良くなし

得るといふ確信であ

り、さらに、明日は今日に優るといふ確信である。」

ヨーロッパ生産性本

部生産性委員会は19

59年3月、ローマ会

議の「報告と結論」と

いう覚書でこのように

「生産性運動の精神」

を謳い、「現状に対す

生産性とは 何よりも精神の態度であり  
現存するものの進歩、あるいは不断の改善を  
目指す精神状態である。  
それは、今日は昨日よりもより良くなし得るといふ  
確信であり、さらに、明日は今日に優るといふ確信  
である。  
それは、現状がいかに優れたものと思われ、  
事実また優れていようと、かかる現状に対する  
改善の意志である。  
それはまた、条件の変化に経済社会生活を  
不断に適応させていくことであり、新しい技術と  
新しい方法を応用せんとする不断の努力であり、  
人間の進歩に対する信念である。

1959年3月 ヨーロッパ生産性本部  
ヨーロッパ生産性本部生産性委員会 ローマ会議報告(抜粋)

Productivity is above all things a state of mind.  
It is the mental attitude by which we advance the state of  
things or aim for continual improvement.  
It is the belief that it is possible to make today better than  
yesterday; further, it is the belief that tomorrow will be

生産性本部ビルには「ローマ会議報告(抜粋)」が掲げられている。

「生産性に対して下さ  
れた最も優れた定義の  
一つ」として記された  
ものだ。

■人類福祉の増進と文  
明の形成

その1年後に創立5

周年を迎えた日本生産

性本部は60年3月6

日、本部創立5周年大

会を開き、「5周年宣

言」を発表した。

宣言は、わが国に生

産性運動が導入されて

5年を経た評価とこれ

からの運動の取り組み

の方向を示したもの。  
宣言では、科学技術の  
発達は生産性を急速に  
上昇させ、経済、社会

の進歩に貢献したが、  
一方、階級の分化と富  
の偏在をもたらしたと  
分析した。

その解決に当たって

生産性運動の目標を、

初めて「人類福祉の増

進と文明の形成を旨と

すいっさいの努力であ

る」と規定。▽海外の

新しい経営管理技術を

もとに経営の近代化を

図る▽体系的・組織的

な経営教育の展開▽労  
使協議をもとに近代的  
労使関係の確立を促す

▽中小企業の経営的基  
礎の強化——など6点  
の方向を示した。

この5周年宣言を一

区切りに、日本生産性

本部の事業活動は、新

たなステップに踏み出

すことになった。

(文中・敬称略)

【参考文献】『生産性運

動50年史』(社会経済生

産性本部、2005年)